

【全体の概要】

正答率は、県平均とほぼ同じ程度である。

○到達度分布では、「十分達成」は県平均を大きく下回り、「要努力」は県平均とほぼ同じ程度である。

●観点別正答率では、「話す・聞く」「知識・理解・技能」は、「書くこと」「読むこと」は、県平均を大きく下回った。

●問題形式では、記述式の問題の正答率が低く、無解答率も高かった。

	分析の結果・本校の課題	改善に向けた具体的取り組み
話すこと・聞くこと	<p>正答率は県平均とほぼ同じ程度である。</p> <p>○「話すための材料を人との交流を通して集める」と「目的に応じて資料を効果的に活用して話す」問題は、県平均を大きく上回っている。</p> <p>●「論理的な構成や展開に注意して聞く」問題は、県平均を下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> グループ活動を取り入れた授業を今後も効果的に仕組んでいく。その際、グループ内の話し合いでも、どのように話せば相手に伝えられるかを考えさせ、相手を意識した話の構成や展開、また、分かりやすい語句を使用するよう工夫させることなどの指導を随時行う。
書くこと	<p>正答率は県平均をやや下回る。</p> <p>●「材料を整理して文章を構成すること」と「表現の仕方について捉え、自分の考えを書く」問題ができていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「主題」「材料」「構成」をしっかりと生徒にもたせ、「分析力」「思考力」「構成力」「文章表現力」等、個別に段階を追って、それぞれの能力の育成を図る。
読むこと	<p>正答率は県平均を大きく下回っている。</p> <p>●目的に応じて必要な情報を読み取ることにはできているが、文章の構成や展開、表現の特徴に自分の考えをもつことや、場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解することは苦手になっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 説明的文章における構成や要旨、文学的文章における展開や登場人物の心情や情景の把握のために、言葉や表現に着目させながら、さまざまな「書く」活動を通して、自分の考えを整理させ、まとめさせる指導を回数多く行う。
知識・理解・技能 言語に関する	<p>正答率は県平均とほぼ同じである。</p> <p>○漢字の読みや慣用句の問題の正答率が高い。</p> <p>●適切なことわざを選択する問題の正答率が高いが、語彙力の不足とともに言葉を知ってはいるが、使い慣れていない傾向が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、語句や漢字等、言語について習得の徹底と反復学習により、定着を図りたい。 文法や古典の知識も、時間がたつと理解した内容を忘れてしまうので、適宜振り返りの時間を作っていく。 国語辞書や国語資料集を活用しながら、語彙力を上げるように仕組む。

【全体の概要】

正答率は、県平均とほぼ同じ程度である。

○到達度分布では、すべての分野で県平均と同じ程度である。

○観点別正答率は、「考え方」「知識理解」が県平均と同じ程度で、「技能」は県平均をやや上回った。

○無回答率は、県平均を大きく下回った。

	分析の結果・本校の課題	改善に向けた具体的取り組み
数学的な考え方	<p>県平均とほぼ同じである。</p> <p>●「与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、事情に即して解釈することができる」という問題の正答率が低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・長い文章を読み取りながら、必要な情報を取り出して、問題解決する必要がある。授業では、必要な情報に丸で囲ませたり、下線を引かせたりする。また、その必要性や有用性を理解させるようにする。 ・グループ活動を取り入れた授業や、定期テストや課題で同様の問題を取り扱う。
数量や図形についての技能	<p>県平均をやや上回っている。</p> <p>○「数と式」の領域の計算問題では、授業の最初に計算小テスト、単元終了後に中テストを行った結果、県平均の正答率を上回った。</p> <p>●「具体的な事象における2つの数量の対応を、グラフから読み取ることができる」という問題の正答率が低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・変数の関係式をグラフに書き表す技能は身に付いているが、数量関係とグラフの意味が関連付けられていないため、グラフから数量の変化を読み取ることができていない。関数領域の導入時に、ともなう変わる数量の関係を表す表や式、グラフについて学習を振り返り、定着を図る。
数量や図形の知識理解	<p>県平均とほぼ同じである。</p> <p>●「錯角の意味を理解しているか」と「角の二等分線の作図が図形の対称性を基に行われていることを理解している」という問題の正答率が低い。学習してから長い時間がたっているため、誤答が多いようである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各領域、各単元の重要な語句やその意味・性質は、その授業の都度、覚えているか、理解しているかを小テストで確認する。 ・図形の性質を理解し、活用する問題を週末課題で数多く取り入れる。 ・2学期の図形学習では、既習事項の知識が必要となるため、授業で復習の時間を確保し、振り返る。

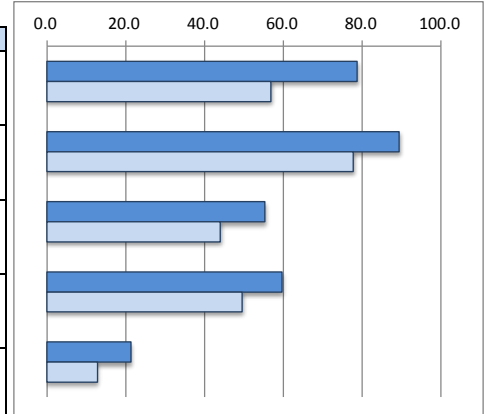
◆平成29年度佐賀県学習状況調査〈9年生 意識調査〉 小城市立小中一貫校 芦刈観瀾校 中学部

全体の概要

- ・地域での活動に積極的に関わっている生徒が多く、保護者も学校の活動への関心が高い。
- ・家庭学習の習慣が十分に身につけておらず、宿題や家庭での授業の振り返りが十分にできていない。
- ・携帯電話やスマートフォンの所持率が高く、メールやゲームに大きく時間を割いている傾向がある。

①県と比較して数値が高い項目

	項目	差	本校	県
45	地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか。 1 参加したことがある	21.9	78.7	56.8
54	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。 1 あてはまる	11.7	89.4	77.7
30	家の人(兄弟姉妹は含みません)は、授業参観や運動会などの学校行事に来ますか。 1 よく来る	11.3	55.3	44.0
65	授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていたと思う。	10.1	59.6	49.5
21	普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、部活をしますか。 1 3時間以上	8.5	21.3	12.8



分析

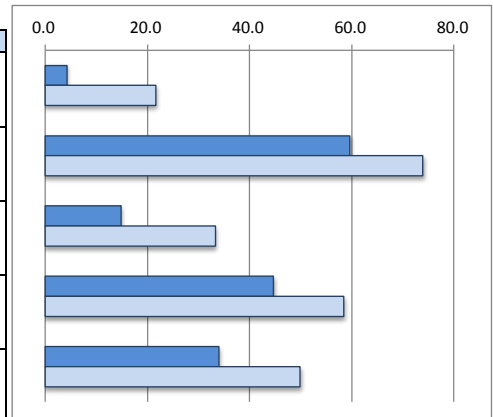
- ・地域での活動や行事、ボランティア活動などに積極的に取り組む生徒が多い。社会の一員としての自覚が芽生え、地域での良好な人間関係が構築されている。
- ・学年・学級での人間関係が良好であり、支持的風土作りができつつある。
- ・部活動をしている生徒が多く、1日の多くの時間を部活動の練習時間や対外試合等に充てている。
- ・保護者の授業参観や体育大会等の学校行事への参加率が高く、学校教育への関心が高い。

取組

- ・生徒会でボランティア活動を推進しているため、地域でのボランティア活動への参加率が高い。この取組は今後も続けていきたい。
- ・体育大会や文化発表会など小中一貫校での良いつながりが、保護者の学校行事への参加につながっている。今後も9年生が学校行事をリードし学校行事を活性化させていきたい。
- ・部活動に熱心に取り組む生徒が多く、家庭の協力や支援も大きい。今後は、家庭学習の充実のための取組を保護者と連携して進めていきたい。

②県と比較して数値が低い項目

	項目	差	本校	県
14	普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間はのぞきます。) 7 インターネットやスマートフォンを持っていない。	17.4	4.3	21.7
32	学校の宿題をしている。	14.3	59.6	73.9
49	外国の人と友だちになったり、外国のことについてもっと知りたいと思う。	18.4	14.9	33.3
71	国語の勉強は大切だ。	13.7	44.7	58.4
75	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。	15.9	34.0	49.9



分析

- ・携帯電話やスマートフォンの所持率が高く、1日に利用している時間が長い。その分家庭学習に割く時間が相対的に短くなり、宿題や予習・復習の取り組みが不十分になっている。
- ・国語への関心が低く、社会での有用性を感じている生徒が少ない。
- ・外国のできごとや文化への興味・関心が薄く、外国の人と積極的に関わろう考えている生徒が少ない。

取組

- ・家庭での携帯電話やスマートフォンの使用についての約束事を徹底させ、併せて情報モラル教育を充実させたい。
- ・国語で学んだことを日常生活で生かすことができていると実感できるような取組を意図的に設定したい。
- ・グローバル化の視点から、英語でのコミュニケーションの重要性、異文化理解大切さを英語科を中心に推進し、ALTの積極的活用を図りたい。